

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
695 第二特別展開催事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業種別	継続		
事業期間	～		
事業実施の根拠法令	博物館法・和歌山市立博物館条例		
関連個別計画			
担当課・担当課長・Tel	博物館	近藤 壮	423-0003
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		文化スポーツ費	
	目		博物館費	
	大事業		博物館事業	
中事業		第二特別展開催事業		

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にする)ための事業か 和歌山に関して地元に着目したテーマを設定し、貴重な博物館資料で展覧会を構成することによって、市民文化の向上に寄与する。		全体事業概要 会期を夏季(7月～11月)に、公開日数を30日程度で設定し、展示資料を原則的に和歌山市内及び周辺から借用して展覧会を構成する。なお、和歌山市立博物館条例第4条に基づき、特別展開期中は入館料を改定する。			
	事業内容	平成27年度 この展覧会は、紀の国和歌山国体の開催を期に近代スポーツの黎明期から黒潮国体の開催まで、国体を中心とした和歌山のスポーツ史の流れを概観し、戦前のオリンピックや明治神宮体育大会、戦後の国体を照会する。	平成28年度 古来より和歌浦の玉津島神社は、多くの人々の信仰を集めてきた。玉津島神社社蔵の「三十六歌仙額」が和歌山市指定文化財に登録されたことにちなみ、神社の伝来資料を一同に会して展示し、玉津島神社や和歌浦の歴史を紹介する。	平成29年度 紀州徳川家の菓子卸用を引き受けた菓子商「駿河屋」の菓子木型や菓子の絵手本を一堂に集め、その造形美や木型に見る和歌山の歴史を探ります。	平成30年度 平成30年度は、和歌山城再建60年であることから、和歌山城をテーマを設定し、和歌山城の歴史を巡る展覧会を開催する。	平成31年度 平成31年度は、本願寺鷲ノ森別院と雑賀衆をテーマにその時代の歴史を巡る展覧会を開催する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	4,260	3,768	4,124	3,720	3,822	3,233	3,890		3,890	
伸び率(%)	-	-	▲3.2%	▲1.3%	▲7.3%	▲13.1%	1.8%	▲100.0%	0.0%	-
人件費	正規職員	7,294	5,157	5,157	5,394	5,394	4,035	1,149	1,149	
	正規職員以外	472	609	609	566	566	497	3,975	3,975	
	小計	7,766	5,766	5,766	5,960	5,960	4,562	5,124	5,124	
国庫支出金										
県支出金										
市債										
その他	586	103	800	279	800	413	800		800	
一般財源(税等)	3,674	3,665	3,324	3,441	3,022	2,820	3,090		3,090	
所要人数(人)	正規職員	0.98	0.69	0.69	0.71	0.98	0.51	0.14	0.14	
	正規職員以外	0.24	0.33	0.33	0.29	0.24	0.38	0.91	0.91	
主な予算内訳	出展資料の梱包移送委託料2,285千円・展示図録等の印刷製本費1,215千円									

3 目標及び実績

指標名	単位	目標値	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
			実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
活動指標 第二特別展開館日数	日	目標値	44	30	30	30	30
		実績値	27	25	25		
		達成度(%)	61.4%	83.3%	83.3%		
成果指標 第二特別展入館者数	人	目標値	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
		実績値	1,223	1,336	1,983		
		達成度(%)	55.5%	60.7%	90.1%		
活動指標		目標値					
		実績値					
		達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	第一特展同様に博物館にとって重要な事業である。上記評価については、過去の実績から妥当と考える。
見直し・改善内容	第1特別展同様、担当する学芸員がおらず、開催不可能。